

令和 7 年度琉球大学法科大学院
C 日程 法学未修者コース 入試問題

記述式試験

令和 7 年 1 月 2 6 日（日曜日）
9 時 3 0 分～1 0 時 1 5 分（4 5 分）

注意事項

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

- 1 この試験では、**解答用紙 2 枚、下書用紙 1 枚**を配布しています。
試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験開始後、問題の部分に印刷不鮮明、汚損等があれば直ちに申し出てください。
- 3 解答は、必ず解答用紙に記入し、答案の何枚目であるかを示してください。
また、答案に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号を記入してください。
- 4 解答用紙が足りない場合は、解答用紙 2 枚目の裏面に記入下さい。
- 5 黒色または青色であれば、筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 6 試験開始後は、途中退席できません。必要があるときは、監督者に申し出てください。
- 7 試験終了後、解答用紙を送信してもらいますので、指示があるまで席を立たないでください。
- 8 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

令和7年度法務研究科入試C 日程問題 記述式試験 45分 45点

〔第1問〕次の文章を読み、設問に回答しなさい。

X大学では、得点が60点以上となった学生について単位を認定すると規則で定めている。X大学のY教授は、担当科目の単位認定につき、次の3つの条件を全て満たせば単位を与える旨をシラバスで公開した。

(1) 計15回の授業のうち10回以上出席すること。なお、授業に出席すれば1回につき1点を与える。

(2) 学期中に課す400字以内のレポートを期限内に提出し、配点45点のレポートにつき23点以上得点すること

(3) 学期末に行う、配点40点の選択式の試験で、20点以上得点すること

〔設問〕単位認定に関し、X大学が定めている規則とY教授がシラバスで公開した指針にはどのような矛盾が存するかを指摘したうえで、Y教授が指針を修正することによりその矛盾を解消する方法について論じなさい。ただし、矛盾を解消する方法を論じるにあたっては、3つの条件のうち2つ以上の条件を修正してはならないものとする。

〔第2問〕次の文章を読み、設問に回答しなさい。

仮想通貨Pの日本円との交換レートの動きを、「上げ」、「下げ」そして大きな変化のない「持ち合い」の3つに分類して記録したところ、次の4つの法則（以下、「本法則」という。）が明確に成立していることが分かった。

法則1：「上げ」の日が2日続くことはない。

法則2：「持ち合い」の日の翌日は「上げ」か「下げ」である。

法則3：「下げ」の日の前日は「持ち合い」か「下げ」である。

法則4：「持ち合い」の日の前日は「上げ」か「下げ」である。

本法則の分析に関して、AとBは次のような見解を示した。

Aの見解：「上げ」の日の翌日は「持ち合い」である。

Bの見解：連続する4日のうち、少なくとも1日は「下げ」である。

〔設問〕本法則の分析に関するAとBの見解の正誤について論じなさい。

〔第3問〕次の文章とこれに関する甲と乙の意見を読み、設問に回答しなさい。

【文章】

キャベツの破断性は、弾力が少ない方がよい状態になる。つまり、組織がもろい状態の方が破断性が良いということである。このような状態だと、キャベツの歯触りが良いと感じられる。

キャベツの破断性が良い状態であるためにはまず新鮮という条件が必要とされる。新鮮なキャベツの細胞は水分がはちきれんばかりに含まれている状態で、少しの衝撃で破断される。ところが、どんなに新鮮なキャベツでもこれだけでは破断性が良いとはいえない。冷却という条件も必要とされる。

また、キャベツの味の魅力は甘味にあるが、この甘味はブドウ糖と含硫化合物によるものである。ブドウ糖はキャベツにかなり多く含まれているが、収穫した後、時間とともに急速に減少していく。収穫した後でも、キャベツは呼吸作用を行う際にブドウ糖が分解されるエネルギーによって生命を維持しているからである。そこで、保存の際は、低温であり、しかも酸素の少ない環境に置くことが大切であるが、呼吸がまったくできなくなると窒息して腐敗してしまう。

そしてキャベツは過熱することでさらに強い甘味が生じる。これはキャベツに含まれる含硫化合物によるものである。含硫化合物は加熱することで甘みの強い物質に変化するためキャベツが甘くなるのである。

【上記文章から論理的に導かれる内容についての甲及び乙の意見】

甲の意見「キャベツは、真空の状態で保存すると新鮮さが長期にわたって保たれる。」

乙の意見「加熱していないキャベツの甘味のもとになるのは、もっぱらブドウ糖である。」

〔設問〕上記文章から論理的に導かれる内容について甲及び乙の意見の正誤について論じなさい。

【出題趣旨】

帰納的な思考能力、演繹的な思考能力、ある程度の分量の文章から論理的な結論を導く能力を測定する問題を出題することにより、法曹に必要とされる分析力、思考力、課題解決力、表現力等を身に着ける素養を備えているかどうかを測定する。

【採点基準】

〔第1問〕（12点）

1. 矛盾点の指摘（4点）
2. 矛盾を解消する方法についての記述（8点）

〔第2問〕（18点）

1. Aの見解の検討（11点）
 2. Bの見解の検討（7点）
- （3）Bの見解が誤りであることの指摘（1点）

〔第3問〕（15点）

1. 甲の意見の検討（6点）
2. 乙の意見の検討（9点）